

ぶどう特報



No.7 H27.7.3
J A 中野市営農センター
J A 中野市ぶどう部会

◆曇雨天・高湿状態が続いています。病害虫の発生にご注意ください。（梅雨明け時期：平年 7/21、昨年 7/21）

【第 8 回ぶどう農薬散布（有核・種なし共通）】

散布時期	袋かけ直後・前回から 10 日後（7 月 15～20 日頃）				
散布薬剤	水	100ℓ	散布日	月	日
	ムッシュボルドーDF	200g			
	ディアナWDG	10g	散布量	ℓ	
	KK-ステッカー（展着剤）	33mℓ			
散布量	散布ムラ、死角のないよう たっぴり 400ℓ 以上				
適用病害虫	べと病・さび病 ハスモンヨトウ・チャノキイロアザミウマ				
注意点	※KK ステッカーについては他の薬剤を投入後、攪拌しながら最後に投入する。 ※高温時のムッシュボルドーの散布に注意（薬害発生） ①クピアカスカシバの発生園は、サムコルフロアブル 10 5,000 倍（収穫前日まで、3 回以内）を散布する。併せて樹体被害部を保護し補殺に努める。 ②ハダニ類の発生または心配される場合は、ピラニカ水和剤（劇）2,000 倍（収穫 30 日前、1 回）を加用する。 ③防除の際、ドリフトに注意し隣接園に絶対飛散しないよう注意する。併せて、袋かけ前のぶどう園に隣接する場合も散布の際には飛散しないよう十分注意する。 ④コガネムシ成虫類発生園はスミチオン水和剤 40 1,000 倍（収穫 30 日前、2 回）を使用しても良い。ただし、ガットサイド S と同成分が含まれるため、使用回数に注意（合計 2 回まで）				

ぶどう管理情報

（1）袋かけ・傘かけについて

袋かけの際は次の事にご注意ください。

- ①雨上がり直後の果実がぬれている状態での袋かけは行わないでください。（病害虫予防・日焼け、縮果症予防）
- ②シャインマスカットは、日当たりの良い所や、樹勢の弱い所は果実の黄化が進み小粒傾向にあるため、袋かけと併せて必ず傘かけを実施しましょう。

（シャインマスカット用果実袋 N グレープ DT カラー緑、ワンタッチ乳白傘、クラフト紙傘、タイバック製傘等）

- ③日焼けが心配な場所については袋かけと同時に傘かけを実施する。
- ④毎年スリップスの被害が果軸まで及んでいる場所は、早めの袋かけを実施する。
- ⑤袋かけが遅れる場合は、下記特別散布を実施した後、袋かけを実施して下さい。（詳細特報 No.6 参照）
その際は果実の汚れに注意しながら散布をしてください。

- ・アミスター10フロアブル 1,000 倍（収穫 30 日前まで、3 回以内）
- ・ライメイフロアブル 4,000 倍（収穫 14 日前まで、3 回以内）

露地栽培管理

高温干ばつ対策・毎年梅雨明け後、急激な高温・乾燥状態になる傾向にあります。極端な乾燥・過湿の繰り返しは日焼け、裂果、肉質を著しく低下させる要因になるため、次の管理を行って下さい。

- ①梅雨明け後は早急にかん水、稲ワラを敷くなど土壌水分の蒸散を防ぐ。
これからは葉からの水分蒸散が盛んになるので、深根へも供給できるようにかん水をこまめに行う。
- ②とび玉直前に極端な枝の切除を行うと縮果症を助長するので新梢管理が遅れている場合は、とび玉発生後 8 月上旬頃に長梢では展葉 25 枚位で摘芯を行う。短梢では隣の主枝の房に被らない程度に整理する（伸長が旺盛な樹は 8 月中下旬）ただし棚面が暗く、むれっ葉（葉の黄変）がみられる場合は棚下に枝を下げ明るさを確保する。

追肥関係（有核巨峰）

樹勢維持、回復を目的に弱樹勢の樹を中心にこまめな追肥を実施する。

乾燥状態だと肥料吸収ができない状況になりますので、乾燥時は施肥後かん水も併せて実施して下さい

- ①樹勢維持・着色向上…トビ玉発生時にプレシャス有機またはジャンプ 6 号：1 袋/10a 当り
- ②樹勢維持・日持ち性向上…収穫直前（8/下旬～9 月上旬）プレシャス有機または硫安：1 袋/10a 当り